

川 あ そ び 情 報 誌

# 九州かわとも

第7号  
TAKE  
FREE



## 水辺で乾杯 in 九州 2023特集

### ■「川の応援団」

- ・前 国土交通省 水管理・国土保全局長／岡村次郎 氏

### ■「川の先駆者」

- ・直方川づくり交流会
- ・NPO 法人大川未来塾／本間 雄治さん

### ■「流域じまん」

- ・筑後川鵜飼
- ・親子で体験活動／姶良川河川愛護会
- ・嘉瀬川キャンプの賑わい／NPO 法人嘉瀬川交流軸

### ■ 川のチャレンジ～はじめてやってみた取組

- ・竜門ダムフェスタ

やへばつ  
川  
へ行  
こー！

表紙の写真：第5回九州川の風景フォトコンテスト  
最優秀賞／長崎県／江迎川

九州かわとも



川あそび情報誌  
九州かわとも 「やっぱり川へ行こう」

2023年秋号(Vol.7)  
2023年12月15日発行

編集発行：「九州かわとも」編集局  
事務局：九州河川協力団体連絡会議

## 九州の川遊び情報募集中！

九州の川で色々な活動をしている皆様！「九州かわとも」編集局まで、  
ぜひ情報をお寄せください。お待ちしております。



松浦川水系



遠賀川水系



緑川水系



大淀川水系



川内川水系



筑後川水系



菊池川水系



菊池川水系



五ヶ瀬川水系



肝属川水系



遠賀川水系



遠賀川水系



遠賀川水系



遠賀川水系



筑後川水系



遠賀川水系



菊池川水系



大淀川水系

裏面には、今号で特集しております水辺で乾杯特集に入りきれなかった写真を掲載しています。

川あそび情報誌「九州かわとも」事務局  
(一社) 北部九州河川利用協会内

TEL : 0942-34-6733 FAX : 0942-32-6977  
MAIL : kawatomo.mk@gmail.com

## TOPIC

(株)有明測量開発社 〒860-4108 熊本市南区幸田2丁目7-1	いであ(株) 九州支店 〒812-0055 福岡市東区東浜1-5-12	応用地質(株) 九州事務所 〒812-0018 福岡市博多区住吉3丁目1番80号
(株)大本組 九州支店 〒810-0041 福岡市中央区大名2-4-30	(株)奥村組 九州支店 〒805-8531 北九州市八幡東区山王2-19-1	(株)オリエンタルコンサルタント 九州支社 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-2-8
(株)柿原組 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-4-21	(株)川原建設 〒871-0434 中津市耶馬渓町大字樋山路38	技研興業(株) 九州営業所 〒812-0007 福岡市博多区東比恵2丁目20-25
(株)九州開発エンジニアリング 〒862-0912 熊本市東区錦ヶ丘33番17号	(株)九州建設設計エンジニアリング 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号	九州建設コンサルタント(株) 〒870-0946 大分市大字曲936番地1
(株)九州建設マネジメントセンター 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目5番19号	九州電力(株) 〒810-8720 福岡市中央区渡辺通2丁目1-82	(株)共同技術コンサルタント 〒880-0824 宮崎市大島町山田ヶ窪1926-1
共和コンクリート工業(株) 九州営業部 〒812-0025 福岡市博多区店屋町8-24	(株)建設環境研究所 九州支社 〒812-0023 福岡市博多区奈良屋町2番1号	(株)建設技術研究所 九州支社 〒810-0041 福岡市中央区大名2-4-12
(株)建設技術コンサルタント 〒890-0007 鹿児島市伊敷台一丁目22番1号	国際航業(株) 九州支社 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3丁目6番3号	五洋建設(株) 九州支店 〒812-8614 福岡市博多区博多駅東2丁目7-27
砂防エンジニアリング(株) 〒350-0033 埼玉県川越市富士見町31-9	三州技術コンサルタント(株) 〒890-0042 鹿児島市薬師1丁目6番7号	ジェイエイシーエンジニアリング(株) 九州支店 〒812-0014 福岡市博多区比恵町1-1
清水建設(株) 九州支店 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通3丁目6番11号	第一復建(株) 〒812-0006 福岡市博多区上牟田1丁目17番9号	(株)大進 〒890-0016 鹿児島市新照院町21番7号
(株)高崎総合コンサルタント 〒839-0809 久留米市東合川3丁目7番5号	中央開発(株) 九州支社 〒814-0103 福岡市城南区鳥飼6-3-27	(株)東京建設コンサルタント 九州支社 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2丁目12番3号
飛島建設(株) 九州支店 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通5丁目14番12号	(株)西技計測コンサルタント 九州営業所 〒826-0041 田川市弓削田見立3175	(株)西日本科学技術研究所 〒780-0812 高知市若松町9番30号
西日本技術開発(株) 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1丁目1番1号	(株)日水コン 九州支所 〒812-0038 福岡市博多区祇園町7-20	日鉄鉱コンサルタント(株) 福岡支店 〒820-0053 飯塚市伊岐須1-356
日本工営(株) 福岡支店 〒812-0007 福岡市博多区東比恵1-2-12	日本振興(株) 九州支店 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-21	(株)ニュージェック 〒531-0074 大阪市北区本庄東2丁目3番20号
パシフィックコンサルタント(株) 九州支社 〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7番21号	(株)不動テトラ 九州支店 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目1番1号	松尾建設(株) 〒840-0842 佐賀市多布施一丁目4番27号
松本技術コンサルタント(株) 〒871-0161 中津市大字上池永1285-10	三井共同建設コンサルタント(株) 九州支社 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-14-1	牟田建設(株) 〒842-0103 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲1756
明大工業(株) 〒874-0922 別府市船小路町3番43号	八千代エンジニアリング(株) 九州支店 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴3-9-39	



## 石橋国宝へ！

「九州川の情報誌かわとも6号」にて掲載しました熊本県上益城郡山都町の「通潤橋」が、令和5年(2023年)9月25日(月曜日)に、「国宝」に指定されました。

「通潤橋」のような土木構造物が国宝に指定されるのは全国初となります。地域の多くの方に愛され、守り続けてこられたからこそその指定だと思います。おめでとうございます！

## 「九州かわとも」7号 | もくじ

■ 目次／TOPIC：石橋国宝へ！	1
■ 協賛企業のご紹介	2
<b>■ 川の応援団</b>	
● 前 國土交通省 水管理・国土保全局長／岡村次郎氏	3
<b>■ 【特集】水辺で乾杯 in 九州 2023</b>	
● 水辺で乾杯in九州2023	5
<b>■ 【シリーズ】川の先駆者たち</b>	
● 直方川づくり交流会	7
● NPO 法人大川未来塾／本間 雄治さん	9
<b>■ 流域じまん</b>	
● 流域じまん① 筑後川鵜飼	11
● 流域じまん② 元気な声が聞こえて来た！各地のイベント・マルシェ特集 (NPO 法人嘉瀬川交流軸／姶良川河川愛護会)	13
<b>■ 川のチャレンジ はじめてやってみた取組</b>	
● 竜門ダムフェスタ	14
<b>■ TOPICS ① 流域治水について</b>	15
<b>■ TOPICS ② 九州河川協力団体連絡会議 みらい会議</b>	19
<b>■ 団体紹介</b>	
・ 大分川／花園グラウンドをきれいにする会	21
・ 松浦川／駒鳴集落を守る会	
・ 球磨川／エコミュース八代	22
・ 小丸川／木城町ふるさと振興協会	



【表紙の写真】

第5回九州川の風景フォトコンテスト  
最優秀賞  
長崎県:江迎川



【裏表紙の写真】

裏面には、今号で特集しております  
水辺で乾杯特集に入りきれなかった  
写真を掲載しています

# 川の応援団

前国土交通省 水管理・国土保全局長

岡 村 次 郎

おかむら

じろう

的に活動して下さる方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

川は地域にとって代表的な存在の一つですので、大切にして下さる皆様の活動には本当に頭がさがります。もちろん私達国土交通省職員も単なる仕事の枠を超えた思いを持つて河川管理を行っていますが、地域の方々の自主的な活動は、何よりも心強いです。ですので、その活動を出来る限り支援して、有機的に繋げ、活発になるようにしたいなと感じます。それがひいては地域の元気、九州の元気、日本の元気につながっていくのだと思います。



私は、高校時代に床上・床下浸水を経験した事がきっかけで治水に携わりたいと思いました。自宅周辺は元々水田でしたが次第に住宅が建つようになると、近所の川の水位が上がり、最終的には溢れ出すようになりました。そういう意味では、ある種の経験者でもあって、私の原点のようなところも実はあります。大学では土木を専攻。河川の研究室に進み、建設省に入省しました。

九州では肝属川と松浦川には行く事ができていませんが、のこり18水系にはお邪魔させていただきました。日頃から河川を愛し、能動



特に、今後は流域治水の時代になります。今まで「治水の主役は河川管理者だ」という自負を持って担ってきましたが、この温暖化の中で、治水も含めて、あらゆる方々の協力が必要になります。しかし、川との接点のない方々にはなかなか伝わりません。そのような方々に河川協力団体の皆様の活動が知れ渡ると、非常に有機的な結びつきになると思いますし、その中で、水を貯留する等、様々な治水対策になります。

川の仕事の基本として、現場のことは、現場に一番近い方が最適な答えを持っている私は思っています。謝の気持ちでいっぱいというのが、正直なところです。

これから先、いわゆる地方創生、今は岸田内閣になつて「デジタル田園都市構想」みたいな世界になつていますが、デジタルという技術も活用するというのは当然のことなのです。が、根底に流れているのは、やはり「地域をしっかりと大事にしたい」という事柄だと思うので、それを我々は川を舞台にやれることを取組んでいきたいなと思っています。

ぜひ、様々ななかたちでのご協力をお願いいたします。

いろいろな見方はありますが、防災の基本も、日頃の使い方や管理の方法も「現場の事は現場で」だと思います。それを支えるために必要な制度作りは東京の方で応援させていたくという事だと思いますので、逆に言うと課題になっている事があれ



インタビュー：原田佐良子河川環境課長



今年はコロナによる制限も解除され、九州の各流域でも「元気な声が聞こえてくる」1年にしたいねとの思いから「九州河川協力団体連絡会議」と「国土交通省九州地方整備局」で連携し、各流域の「水辺で乾杯・月見で乾杯・ムーンリバー」の写真を繋げて、「かわとも」でメッセージを発信することにしました。

元気な声が返ってきた2023年「ただいま九州 心ひとつに元気な声を届けよう」

かわともを読んでくれているあなたにも「元気」「笑顔」が届きますように！

# 水辺で乾杯 in九州 2023 特集



た



遠賀川水系

だ



山国川水系

い



筑後川水系

ま



矢部川水系

九



松浦川水系

州



九州地方整備局

心



九州地方整備局

ひ



本明川水系

と



菊池川水系

つ



白川水系

に



緑川水系

元



球磨川水系

気



大分川水系

な



九州地方整備局

声



番匠川水系

を



五ヶ瀬川水系

水辺で  
乾杯  
in 九州  
2023 特集

届



大淀川水系

け



川内川水系

よ



肝属川水系

う



小丸川水系

水辺で  
乾杯  
in 九州  
2023 特集

# 川の先駆者

交流会の始まりは、  
ある一人の出会いから

平成8年に赴任してきた田上さん  
所直方出張所長(当時)の田上敏博さん  
でした。

交流会の仕掛け人は遠賀川工事事務  
所直方出張所長(当時)の田上敏博さん  
は、本来の川づくりは住民の声を積極  
的に取り入れるべきだと考え、同出張  
所の河川愛護モニターだった故野見山  
ミチ子さんに相談しました。そこで、河

川に対する思いや遠賀川の将来につい  
て語り合ううちに意気投合した二人  
は、行政主導ではない住民主体の川づ  
くりを進めていこうと話し、その第一  
歩として「直方川づくり交流会」を立ち  
上げることにしました。そして、遠賀川  
について様々な意見が出されました。  
その後20年以上も続いていく交  
流会のスタートでした。

# 直方川づくり交流会



「直方川づくり交流会」発足会の様子



「遠賀川夢プラン」発表の様子



## みんなの夢を描いた 「遠賀川夢プラン」

こうして始まった交流会ですが、夢  
と現実の間で話し合いかが上手くいかな  
いこともありました。そこで、メンバーや  
多くの方に参加いただきました。その  
中には、水辺館を巣立つて様々な分野  
で活躍している若者たちの姿もあり、  
水辺館での思い出やこれから夢を  
語っていました。こうした子どもたちの成長は、我々がこれまで交流会  
を続けてきた元気の源となっていました。  
これからも次世代を担う子どもたちが成長できる場所であり続けるべ  
く、直方川づくり交流会は走り続けます。

## 300回を迎えた交流会、 そしてこれから

20年以上に渡って月に一回続けて  
きた交流会の定例会は、令和4年7月  
に300回を迎え、記念の定例会には、  
これまで交流会を支えていたいた多  
くの方々に参加いただきました。その  
中には、水辺館を巣立つて様々な分野  
で活躍している若者たちの姿もあり、  
水辺館での思い出やこれから夢を  
語っていました。こうした子どもたちの成長は、我々がこれまで交流会  
を続けてきた元気の源となっていました。  
これからも次世代を担う子どもたちが成長できる場所であり続けるべ  
く、直方川づくり交流会は走り続けます。

## 若者を育てる遠賀川水辺館



## 夢プランが現実に 遠賀川水辺館が完成

### 遠賀川水辺館

#### ■所在地

〒822-0013 福岡県直方市溝堀1丁目1-1

#### ■開館時間：午前10時～午後6時

#### ■休館日

- ・月曜休館（月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日）
- ・年末年始 12月28日～1月3日

#### ■入館料：無料

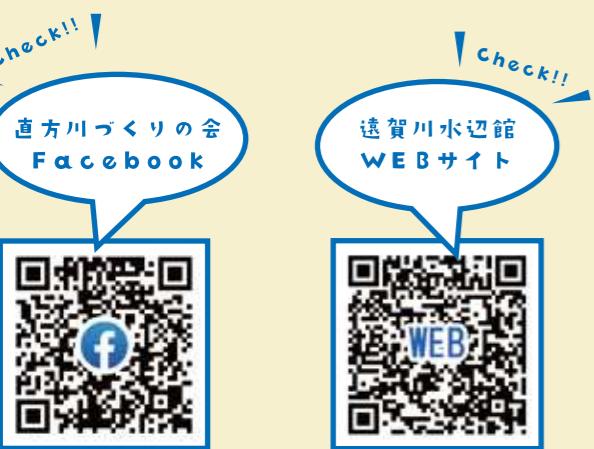
は識者による講演会やスイスイや四万十川などの現地研修会を積極的に開催するなど川に関する知見を深めていきました。その後も会合を重ね、平成10年3月、遂に「遠賀川夢プラン」の1次提案にこぎつけました。この中には後に交流会の活動の核となる「遠賀川水辺館」、「春の小川（ビオトープ）」、「カヌーのりば」、「緩傾斜護岸」等の原形となる提案もありました。

その後も夢プランの提案は続き、夢は残しつつ、より実現性の高いものになっていきました。そして、平成16年10月、遂に交流会メンバーの悲願である「遠賀川水辺館」が開館しました。



その後も夢プランを得たことで、交流会はより幅広く、安定した活動ができるようになります。遠賀川のフィールドを活かした自然体験学習である「リバーチャレンジスクール（年6回開催）」はじめとして、カヌースクールやビオトープでの生き物調べ等の環境学習に小中学生を中心に多くの人たちが訪れるほか、ちょっととした休憩の場としても気軽に利用され、令和5年6月には来館者が50万人を突破しました。

水辺館という拠点を得たことで、交流会はより幅広く、安定した活動ができるようになります。遠賀川のフィールドを活かした自然体験学習である「リバーチャレンジスクール（年6回開催）」はじめとして、カヌースクールやビオトープでの生き物調べ等の環境学習に小中学生を中心とした休憩の場としても気軽に利用され、令和5年6月には来館者が50万人を突破しました。



# 川の先駆者

## 本間 雄治さん

きつかけは  
「大川の観光活性化」

私が「筑後川」と関わるご縁を頂いたきっかけは、平成17年で、入り口は「大川の観光活性化」でした。そのころ、地域活動に協力して欲しいと、「NPO法人大川未来塾」からお説いを頂いたのです。もちろん、自分の経験を生かして地域の皆様のお役に立てるならばと思ひ喜んで加入させていただきました。



NPO 法人大川未来塾

福岡県大川市



川の先駆者



### プロフィール

昭和24年生まれ。佐賀県佐賀市在住。

平成17年～現在まで「NPO法人大川未来塾」の事務局長を務める。筑後川の歴史を調べる皆さんに届けていくことを「自身の使命」とし取り組む。各地で講演活動も行う。

NPO法人大川未来塾  
Facebook



### 川が 「日本一の家具産地」に なった原点

筑後川下流の「大川市」というと、皆さんは「日本一の家具の産地」というイメージがあるかもしれません。しかし、私はその原点は当時「若津港」で栄えた「深川造船所」にあると考えています。「深川造船所」では、「大川の木工技術」採用した「木造車両（電車）」が多く作られました。福岡市で、市民の足として大川に活躍した「路面電車」も、大川の深川造船所で製造されたものです。また、福岡だけでなく広島県呉市の路面電車も製造していた事も分かり、大規模な木造車両の生産拠点であつたことが、戦後の大川を「日本一の家具産地」にしたひとつのかつかけだと思っています。

### 若い世代へのメッセージ 「困ったときは 歴史に学ぼう」

次の時代を担う皆様にメッセージとして送りたい言葉。それは「困難な時は歴史に学べ」という言葉です。道に迷つたときは、歴史を辿つてみてください。昔の人々がそれぞれの地域で培つてきた文化やその背景が見えてくる。ぜひ、皆さんにもそれぞれが住む「流域」の歴史に触れてみて頂きたいと思います。

まずは、「知ること」からはじめたいと思い、歴史について研究しようと思いつい、筑後川河口の石組みの堤である「若津港導流堤（デ・レイケ導流堤）」という構造物について研究を始めました。「日本三大暴れ川」と言われた筑後川は、古来より多くの水害を来し、流域に多くの被害を出しました。明治になると政府は大々的な治水水利水の目的で、明治20年（1887年）に改修工事がはじまりました。導流堤は若津港機能改善のための築堤工事として進められました。これは、下流の水深を保ち、中型蒸気船の航行に支障を出さずに若津港の利便性を高めるためのものです。

「導流堤」の完成により、「若津港」は発展していきます。明治29年の若津港からの「出荷額」は、なんと「博多港」の倍以上であったことが「福岡県統計書」でも明らかになっています。主に「米の積み出し港」としての役割を担い、「九州西回り航路」といつて、当時は「東京・大阪・若津港」の直送便もあった事も分かっています。



### 若津港は、九州有数の 物流拠点となつた



川の先駆者



### プロフィール

昭和24年生まれ。佐賀県佐賀市在住。

平成17年～現在まで「NPO法人大川未来塾」の事務局長を務める。筑後川の歴史を調べる皆さんに届けていくことを「自身の使命」とし取り組む。各地で講演活動も行う。

NPO法人大川未来塾  
Facebook



# 流域じまん

ふくおか あさくら  
福岡県朝倉市  
／筑後川



# 筑後川 鶴飼（原鶴温泉）



筑後川の中流域に位置する福岡県朝倉市の「原鶴温泉」。その昔、ケガをした鶴が湯浴びをして傷を愈したという伝説が名前の由来となっています。河川敷に面している温泉の客室からは、窓を開けると筑後川の「リバービュー」と耳納連山の景色が迎えてくれる、川と人の距離がとても近い温泉街です。

そんな原鶴温泉で夏の風物詩として知られるのが、伝統漁法の「鶴飼」です。5月の川開きから9月末にかけて行われます。午後8時から約1時間かけて、「鶴匠」さんが鶴に背負わせた道具とつないだ手縄と船を操ってアユなどの魚を捕まえています。

**先人から受け継いだ  
伝統を、つないでいく**



1300年以上続く歴史のバトンをここで終わらせない。原鶴温泉の皆さん、若手を中心、鶴匠・船頭・旅館組合・行政などの枠や立場を超えて、鶴飼の再開に向けて皆で支えあいながら頑張っています。皆さん、ぜひそんな原鶴温泉に遊びに来てくださいね。



そんな筑後川の「鶴飼」ですが、ここ数年は試練が続いています。2017年7月「九州北部豪雨」が発生します。筑後川の川底には大量の真砂土が流れ込みました。鮎の棲家となる「瀬」やコケが生えた石も土砂に埋まり、川が浅くなることで船を出すこともままならなくなります。その後も、毎年のように大雨が続き3年連続で鶴飼は実施できませんでした。

2017年の九州北部豪雨以降は試練の連続



## 新たな呼び水となる活動

### 「筑後川activity」

下を向いてしまったような状況が続いますが、原鶴温泉の皆さん、常に前を向いています。近年では、鶴飼ができる状況下でも原鶴温泉に「若い人に来て頂くきっかけを」と、新たな呼び水となる取り組みとして「筑後川activity」がはじまっています。筑後川でカヌーやSUP体験をして温泉に入れる、とても贅沢な自然体験ですね。

## 出張鶴飼

### 「鶴飼show」も企画中

新しい取り組みとしてはじまった「鶴飼show」。筑後川で鶴飼ができる状況下でも、多くの皆さんに鶴飼を知つて頂くために、鶴匠や鶴が皆さんの中に行つて行う「出張鶴飼」スタイルです。

1300年以上続く歴史のバトンをここで終わらせない。原鶴温泉の皆さん、若手を中心、鶴匠・船頭・旅館組合・行政などの枠や立場を超えて、鶴飼の再開に向けて皆で支えあいながら頑張っています。皆さん、ぜひそんな原鶴温泉に遊びに来てくださいね。

## 川の駅はらづる

【電話】0946-62-2828  
【住所】福岡県朝倉市杷木久喜宮 1833-10  
【営業時間】9:00 ~ 18:00 【休】月曜  
※天候や川の状態で運行に変更があるため事前に要問合せ

## 鶴飼鑑賞屋形船（要予約）

【期間】5/20（土）～9/30（土）  
【時刻】20:15／受付 20:30／出航  
【料金】  
・大人（中学生以上）：3,000円  
・小学生：1,800円  
・未就学児（3歳以上）：1,000円  
・2歳以下：無料 ※必ず保護者同伴で乗船のこと

# 元気な声が聞こえてきた

各地のイベント・マルシェ特集

令和5年7月。夏休みに入つてすぐ、親子と一緒に遊びに来てくれた小学生の子ども達と「始良川河川愛護会」のメンバー、国土交通省九州地方整備局の皆さんなど30名ぐらいで始良川の生き物調査(水性生物調査)と水質調査を行いました。

## ～親子で体験活動～ 始良川河川愛護会

まずは皆さんの安全を第一に人員配置を行いました。そして、子ども達には少し難しい内容もあった事で、ようが、水温、透明度、またC.O.C.O.D.N.などの調査を実施しました。調査で分かったことは「始良川の水は、とてもきれい！」



調査の後は、楽しい川遊びを実施しました。  
思い思いの方法で色んな魚や川虫を網で捕まえています。子ども達には少し難しい内容もあった事で、ようが、水温、透明度、またC.O.C.O.D.N.などの調査を実施しました。調査で分かったことは「始良川の水は、とてもきれい！」



始良川河川愛護会 会長：小浜昭二



## ～嘉瀬川キャンプの賑わい～ NPO法人嘉瀬川交流軸

この造語には「まだ夢の無い子ども達に様々な体験を通して見て触れて未来を想像させる」意味があります。大人も子どもも楽しめるマルシェを自然と川と人を繋げられる場所で行いたいと言ふ思いから開催しました。



最初は4店舗の出店で、告知を開催前日に絞っていましたが250名ほどの来場者が訪れてくれました。2回目は34店舗で来場者は850名ほど、10月には3回目を迎え、出店は60店舗程になり急速に拡大し認知度を高めております。



NPO法人 嘉瀬川交流軸・宮崎将和

佐賀県最大の河川である嘉瀬川。そんな嘉瀬川の河川敷で、不定期に開催されているマルシェがあります。

## 川のチャレンジ はじめてやってみた取組

### 竜門ダムフェスタドラゴン夜市



9月16日(土)  
16:00～21:00

場所／竜門ダムドラゴンキャンプ場  
小雨決行・雨天の場合は  
翌日(17日)

大幅増便!! 3000人対応!!

QRコード

9月16日(土)、熊本県菊池市の竜門ダムで「竜門ダムフェスタドラゴン夜市」が開催され、多くの来場者で賑わいました。今回は竜門俱楽部の坂本さん、緒方さんにお話を伺いました。

**緒方** 竜門ダムは全国に46カ所ある「地域に開かれたダム」の一つで、広場等が整備されています。その場所をより活かそうと2年間の社会実験を経て、ドラゴンキャンプ場をオープンしました。過疎化で減りゆく町の灯りを、テントの灯りで増やしていくというコンセプトで運営しています。

**坂本** 竜門ダム周辺は灯りが減って夜も寂しいんです。でも、ダムのキャンプ場にはテントが沢山あり、子供達もいます。その光景を見た時、そこに家庭が沢山あるような感じがして、嬉しくなりました。この景色を地元の人にも見て欲しくて、20周年の記念に竜門ダムフェスタドラゴン夜市を開催しました。地元の人も、外の人も竜門ダムでお酒を飲みながら交わって、「ここ良い場所だね」と思ってもらえるような事をしたいよねという事で地域を巡回するバスを呼びました。

コロナでしばらくイベントが開催されていなかった事もあり、想像以上の来場者がありました。良かったな、明りが灯ったなと感じました。

**緒方** 3,000人近く来場しましたね。キャンプ場に夜市がある新しいスタイルで開催する事が出来ました。イベントを象徴する竹のブランコは会員の手作りです。ダムには広場があるけど遊具がなかったので、皆で作りました。

**坂本** 前回は30を超える出店がありましたね。このイベントの主催である斑蛇口湖活性化推進協議会は竜門俱楽部の他にも市役所や国交省、地元コミュニティ組織などが参加しています。予算も限られていますが、実行委員のメンバーが20代～40代の働き盛りなので時間の調整等でも苦労をしました。マルシェだけではなく、20周年を記念して、ダム建設前にあった集落や工事風景の写真を盛り込んだ動画を作成し、屋外スクリーンで上映しました。

坂本大司さん(竜門ダムフェスタドラゴン夜市実行委員長・竜門俱楽部座長)  
緒方元一さん(ドラゴンキャンプ場運営会社「MOFF」代表)

## 1. ご挨拶

九州地方整備局 流域治水推進室

# 流域治水について

# 流域治水推進室

(流域治水推進室 原田 佳奈 書)

初めまして！私たちは九州地方整備局の流域治水推進室です。当推進室は令和5年1月に設置されました。そこで今回は、「流域治水とは何なのか」、「流域治水推進室はどのような活動をしているのか」そして「九州の各流域で取り組んでいること」、さらには「流域治水のこれから」についてお話しします。

## 2. 流域治水とは

近年、九州では毎年のように自然災害が発生しています。今年も7月の大雨で九州北部の河川では甚大な浸水被害が発生しました。この背景にあるのが気候変動による降雨量の増加です。今後この降雨量は、約1.1倍に、また川を流れる流量も約1.2倍に増加すると推測されています。このような気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、国では①氾濫ができるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策を3本柱として流域治水を推進しています。

このため整備局内のかわづくり部局とまちづくり部局間の連携を一層強化し、関係者との連絡調整、その他流域治

水の取組を強力かつ円滑に推進することを目的に、令和5年1月1日に『九州地方整備局流域治水推進室』を設置しました。

## TOPICS ①



流域治水推進室長よりご挨拶



過去の浸水状況と現状を確認！



雨水タンクや集水ネットを会場に展示



- 国、県、市町村をつなぐ意見交換会、現地視察の開催
- ・令和5年6月 九州ブロックにおける流域治水担当者会議
- 流域治水を推進するため窓口になるとともに、以下のようない活動を行っています。

- 国、県、市町村をつなぐ意見交換会、現地視察の開催
- ・令和5年6月 九州ブロックにおける流域治水担当者会議
- 流域治水を推進するため窓口になるとともに、以下のようない活動を行っています。

## 3. 流域治水推進室の活動

流域治水に関する最新動向や九州ブロック内の先行事例について各担当者の生の声を伝えました。また意見交換では自治体の悩みや抱えている課題を聞き、各担当者の流域治水を推進するための意識向上・スキルアップを図りました。

### ・令和5年9月 鹿児島県内における流域治水に関する現地視察



推進室メンバー(牧之内氏)の講演

### ○各流域と情報共有！

令和5年7月29日、宮崎県都城市にて、河川協力団体「大淀川流域ネットワーク」の主催で流域治水シンポジウムが開催されました。シンポジウムでは、流域で雨水を上手に貯めることで被害を減らすことができる、様々な事例を紹介し、流域住民の方々と一緒にできる対策を考えました。



また流域治水推進室メンバーも都城市へ出向き、流域住民の皆様へ流域治水の必要性や、先進的に取り組んでいる事例を共有しました。

### 雨の降り方の変化



令和5年7月出水(筑後川水系巨勢川 浸水状況)

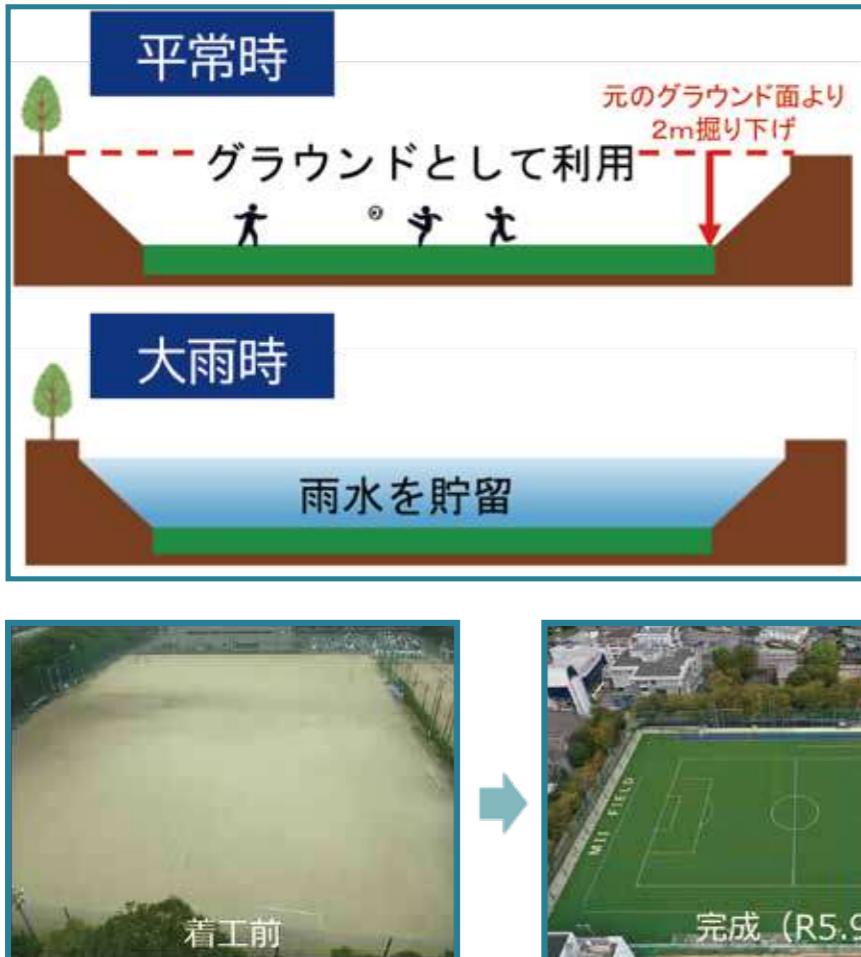


令和5年度流域治水推進室 のメンバーです！



流域治水の基本的な考え方





福岡県久留米市では、もともとある学校のグラウンドを活用して、貯留施設を整備しています。大雨の際には、河川に流れ込む雨の量を一時的に抑えることができます。久留米大学のグラウンドでは、元のグラウンド面より2m掘り下げる工事を行い、令和5年9月に完成しました。

#### ○市町村も動き出しています！

←久留米大学のグラウンドの大雨時の貯水イメージ図

←久留米大学のグラウンドの実際の写真

(左)着工前写真  
(右)完成写真

○他分野と連携し、幅広い浸透を目指す！

熊本河川国道事務所では、熊本市主催の『くまもと「水」検定』3級試験に流域治水の対策内容にまつわる問題を提案し、採用されました！この検定は年間約3000人が受験しており、「水」への関心が高い方に「流域治水」をPRしています。

←「第15回くまもと「水」検定」  
3級試験問題

**第15回くまもと「水」検定3級試験問題**

問25★

熊本市では降った雨を地下に浸透させる「雨水浸透ます」や雨水を貯めて洗車や庭の水やりに利用する「□」の設置に補助金を交付している。これらは流域治水として防災にもつながる。□に入る言葉は？

流域治水…大雨による災害が多く発生する中で、川だけでなく、雨水が川に集まってくる地域や、川があふれ住宅などが水につかりそうな川の近くの地域と一緒に、みんな(国・県・市町村・企業・住民など)で協力して水災害対策を行うという考え方。

ア 水害対策タンク イ 雨水貯留タンク ウ 治水タンク



→推進室メンバー（牧之内氏）  
講演の様子



○九州の河川のこれからを担う若手へ伝える！

令和5年10月11日～12日に九州の未来を描く河川協力団体と整備局の若手の繋がりを作ることを目的に『九州河川協力団体みらい会議』が開催されました。その中で流域治水推進室メンバーより流域治水の講演を行いました。河川で活動される方々に流域治水を自分事として捉えてもらう貴重な機会になりました。



魅力あふれる河川と一緒に生きていくために、流域治水を進めていく仲間として今後ともよろしくお願ひいたします！

#### 5. 流域治水のこれから

九州では流域治水を自分事として捉え、できることは何かを考えてください方が増えてきました。今後は、もっとそのような方を増やして、流域治水を推進したいと思います。そこで、読者の皆様には、九州各流域の河川事務所へ「こんなことがやれそう！」「こうしたらしいんじゃない！？」などの気付きや思いをぜひ共有してください。そして、その思いを行動へ移していくため私たち推進室も一緒に考え、進めていきたいと思います。

○河川協力団体と共に！

大分県の佐伯河川国道事務所では、河川協力団体「番匠川流域ネットワーク」と流域治水について意見交換を実施し、家庭でできるプラスチック製のバケツでつくる雨水タンクが紹介されました。その後、事務所にあつた大型のプラスチック製のバケツを利用して、職員の手作業で雨水貯留タンクを設置しました。屋根に降った雨水を倉庫の縦樋から集めて貯留する仕組みです。今後は、雨が降る毎に貯留量を計測して、効果を算出する予定です。



歴史的な治水対策『巻塘（くわども）』  
(熊本河川国道事務所HPより引用)



↓田んぼダム全体の様子



←現在の設置状況

水あたりの激しい部分の高水敷を広くとることで、水勢を弱めて洪水をゆるやかに流すことが期待できます。

また番匠川流域ネットワーク代表の平野氏の田んぼでは「田んぼダム」を設置し、水位計により観測を行っています。今後、大分県と協力し、ネット回線を用いて収集した水位データをもとに、効果を確認する予定です。



の川づくりで重要なキーワードになる「流域治水」についての講習を行いました。

座学の後は「未来の川づくり」をテーマにしたワークショップを実施。池辺副代表の、どんな「ハード」でも「ソフト」でも「自由」。予算は無限大にあると仮定して、「出来る・出来ない」といった固定概念を捨てた「夢プラン」のアイデアを皆さんで描きました。最初は緊張していた表情だった皆さんでしたが、いつからかお互いの垣根を越えて笑顔もこぼれながらアイデアを出していきました。最後の「発表会」では笑顔が絶えず、質疑応答も積極的に行われるなど、だんだんとみんなが「ひとつ」になっていきました。

1日目：ワークショップの様子



2日目：渡河訓練の様子



2日目は、実際に河川で活動される「川の達人」である河川協力団体の皆さんが中心になって水防災で役に立つ「渡河訓練」を実施。まず水辺の活動の楽しさを知るだけではなく、膝の高さでも流れが急だとかなり危険だということを理解しました。川の危険さを学んだあと、大人数でスクランブルを組み、水流に抵抗しながら浅瀬を渡る「ウエッジ法」も体验し、流水力を身をもって体感しました。

## 九州河川協力団体連絡会議

## みらい会議



令和5年10月11日、12日に熊本県阿蘇市の「YMCA 阿蘇キャンプ場」にて、「九州河川協力団体 みらい会議」がはじめて開催されました。令和5年は河川協力団体制度が出来て10年という節目の年。九州の河川協力団体とパートナーである九州地方整備局が、これまで同様しっかりと連携し、河川を軸とした地域の活性化に向けて取り組んでいくために、「これから先の10年」を見据え、20代～40代と年代を限定した若手同士による講習会の実施となりました。

また、今回の講習会で実行委員長を担当頂いた「九州河川協力団体連絡会議 池辺副代表」からも「九州河川協力団体連絡会議は地元の川について夢を語つ



甲斐河川情報管理官からの挨拶

池辺副代表のご挨拶

講習会1日目は、主に座学とワークショップを実施。まず九州地方整備局河川部原田河川環境課長から「九州地域連携の歴史と九州河川協力団体の概要」の説明。次に九州河川協力団体連絡会議の園田匠副代表・田中洋丞副代表・山田大志副代表から「河川協力団体と九州地方整備局」が連携する事で実現できた地域の取組についての説明。最後に九州地方整備局河川部河川計画課牧之内建設専門官から、これから



て九州地方整備局と連携して川づくりをしてきた。今回を機に若い世代の皆さんが交流し九州の川づくりについて語り合うことが増えることを期待している」と、みらい会議への想いを述べて頂きました。

2日間、みっちりとした講習となりました。参加者から「官・民の垣根を超えて参加者全員が一緒になって川づくりや地域づくりを考えることのやりがいや楽しさを感じました。」との感想をいただきました。講習会の前と後では、参加者の皆さんの顔つき表情がまるで違い、これからの九州を動かす若手の皆さんのがキラキラした笑顔を見ていると、九州の「川づくり」の未来は明るいと感じました。

# 九州各地で「川と街をつなげる」「川と人をつなげる」取り組みが始まっています！

## エコユース八代



3

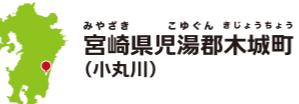
### 八代で高校生が活躍中！「エコユース八代」

「エコユース八代」は、2022年4月に熊本市で開催された「第4回アジア・太平洋サミット」をきっかけに立ち上りました。水や干渉などの水環境をフィールドに「マイクロプラスチック調査」や「田んぼの生き物調査」などを実施しています。なんと、主体的に活動しているメンバーは「高校生！」。「次世代のためにがんばろ会」の大人たちと一緒に、楽しみながら活動しています。今年の7月に開催された「第18回河川・浜辺の大そうじ大会」も主力メンバーとして活躍してくれました。

エコユース八代は体験型環境学習が一番の魅力で、活動するほど地元・八代の水環境を守る意識を持っています。また、参加するだけでなく運営をする機会もあり、企画や人を動かすことの大変さを知ることができました。／米田彩乃

エコユース八代に入ったことで、八代の自然の素晴らしさを実感するとともに、自分が生まれ育った場所で実際に起きている環境問題を目の当たりにし、環境問題を自分事として捉えて活動をすることができました。／島田和花

## 木城町ふるさと振興協会



4

令和5年4月、木城町に、小丸川発電所の上部ダムと下部ダムをコンセプトにした2種のダムカレーが登場しました。小丸川発電所は、電気使用量が少ない時に下部ダム(石河内ダム)の水を上部ダム(大瀬内ダム)へ汲み上げ、使用量が多い時に上部ダムの水を利用して発電するSDGsな揚水式発電所(ダム)です。

### 小丸川のダムカレーを 食べに来てね！



木城町の豊富な食材を使い、地域資源を生かした商品で地域の活性化が図れたらとの思いでダムカレーを商品化しました。ダムカレーをきっかけにSDGsな小丸川発電所にも興味を持ってもらい木城町に遊びにきてください。

発電所の見学ツアー(要予約、無料:ダムカード付き)もあります。



## 「花園グラウンドをきれいにする会」



1



## こまなき しゅうらく 駒鳴集落を守る会



2



## 「自然との共生で かわまちづくり」～地域の資源をみんなで活かす～

駒鳴付近で大きく蛇行している松浦川は、私たちに自然の恵みをもたらすとともに、ひとたび大雨が降ると洪水被害をもたらしてきました。捷水路が平成16年度に完成したことで、安全性は高まりましたが、なんとかホタルが乱舞する駒鳴地区の自然を次世代に残したい。そんな思いから「自然との共生」をモットーに旧河川の自然環境保護及び利活用を図るために、地元住民で「駒鳴集落を守る会」を立ち上げました。

「ウォーターフロントこまなき」は、かわまちづくり事業として整備され、平成28年5月に完成しました。水辺とふれあえる場の整備から、「環境学習」「自然体験活動」「地域住民による美化活動」等を実施することにより住民の郷土理解を更に深め、少子高齢化が進んでいる駒鳴地区のまちおこし・活性化を目指しています。